

## 第5回麻疹対策推進会議

2010.3.10

麻疹排除に向けて  
- 一地方衛生研究所から -

堺市衛生研究所 田中 智之

## CBC News:

Dr. Perry Kendall said " However if you are going to Tokyo, and you weren't sure about your MMR [measles, mumps, rubella] status it would be a good idea to check with your physician or to check your records to be sure that you've had two doses."

He also noted that **it is not standard in Japan for children to get a second MMR booster shot.**

( 2007年6月、カナダ修学旅行中に麻疹を発症した生徒1名を含む41名の日本人高校生・教員が、カナダ政府に出国延期された事件 )



麻疹輸出国 日本



## 堺市の麻疹

平成11年12月

～

平成12年

平成11年 160人

平成12年 556人



### 麻疹全数報告数の推移

|       |   |      |
|-------|---|------|
| 平成15年 | : | 19例  |
| 16年   | : | 3例   |
| 17年   | : | 2例   |
| 18年   | : | 0例   |
| 19年   | : | 203例 |
| 20年   | : | 41例  |
| 21年   | : | 8例   |

## 麻疹流行の推定感染経路

(平成19年)

集団感染

院内感染

家族内感染

保育園 1

小学校 1

中学校 1

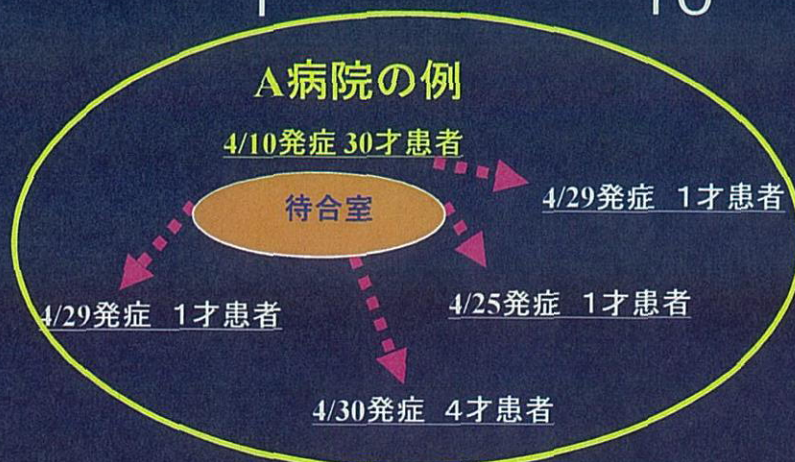
高校 4

施設 1

計 8

1

10



1

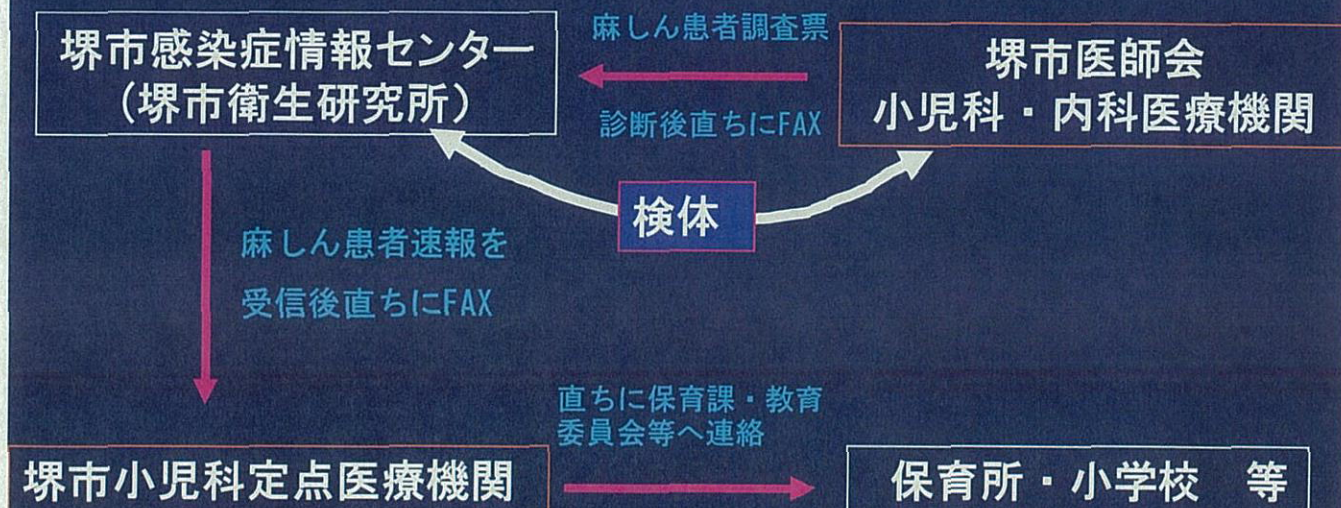
推定接触時間20数分

10

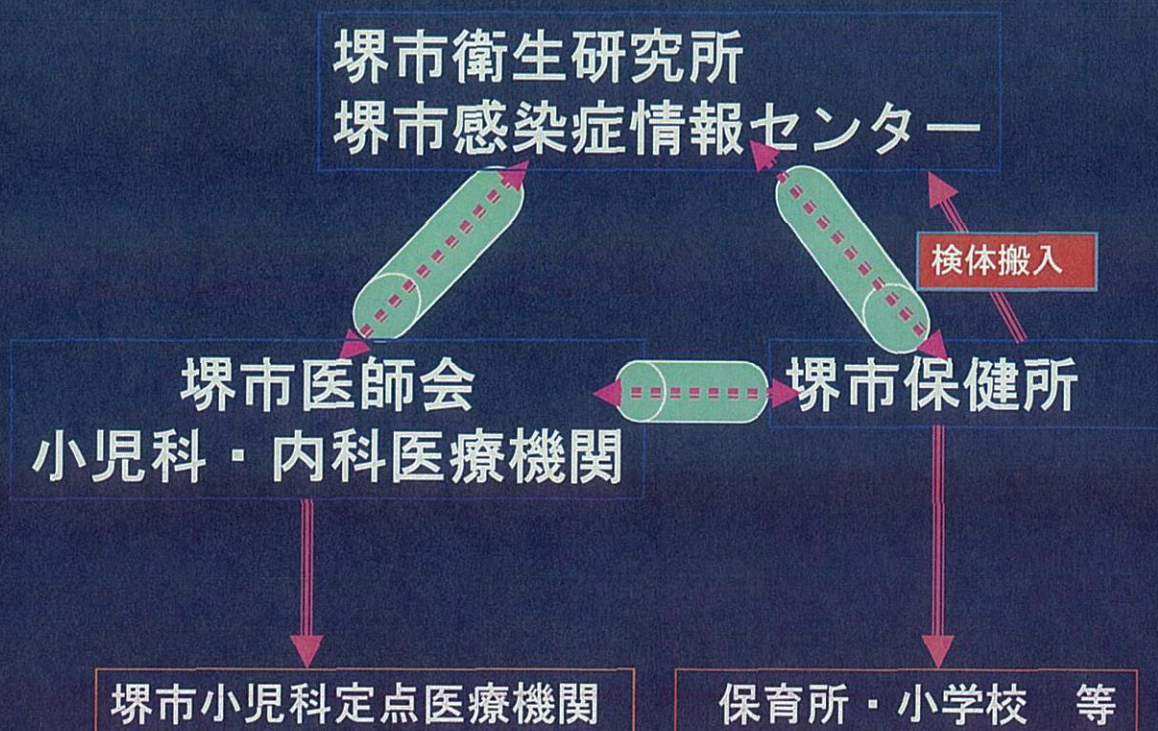


# 堺市における麻しん全数報告の流れ

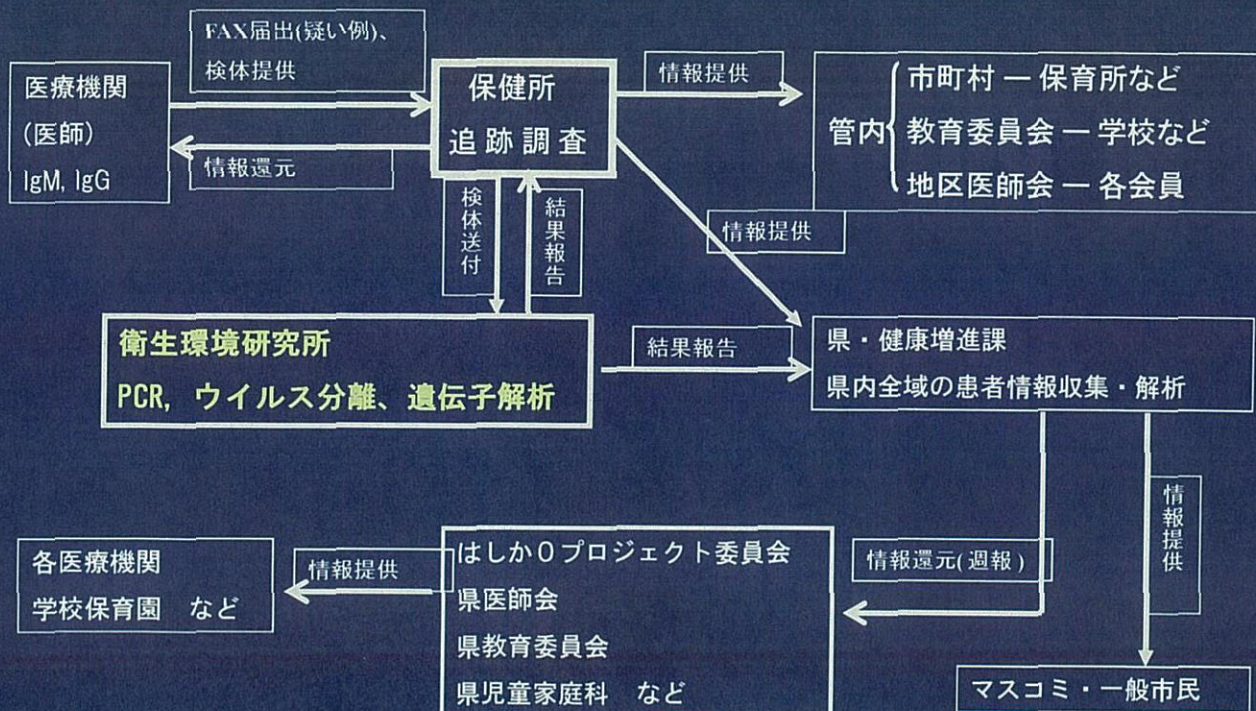
(2003 ~ 2008.7)



## その後の医師会、保健所、衛生研究所の連携 (2008.7 ~ )







## 沖縄県 麻疹全数把握制度の概要

浜端宏英、知念正雄、平良勝也、譜久山民子、沖縄県はしかゼロプロジェクト (2008)

## 麻疹病原体サーベイランス

厚生労働省科学研究費補助金

「ウイルス感染症の効果的制御のための病原体サーベイランスシステムの検討」

麻疹ウイルス研究小班

(研究代表者 清水博之、研究分担者 駒瀬勝啓)

目的: ● 2012年麻疹撲滅に向けた国家的プロジェクト

● 2008～2010年に実験室診断の整備

◎ 全国地方衛生研究所に「研究班麻疹レファレンスセンター」の設置

◎ 地衛研の検査方法の統一化

① レファレンスセンターの役割: 検査技術の研修、IgM 抗体測定等

② 検査検体の統一: 鼻・咽頭ぬぐい液、全血液、尿 の3点セット

③ 遺伝子検査、積極的ウイルス分離による診断検査 等

④ IgM抗体の判定困難 → 本邦ではRT-PCR法による診断を主眼

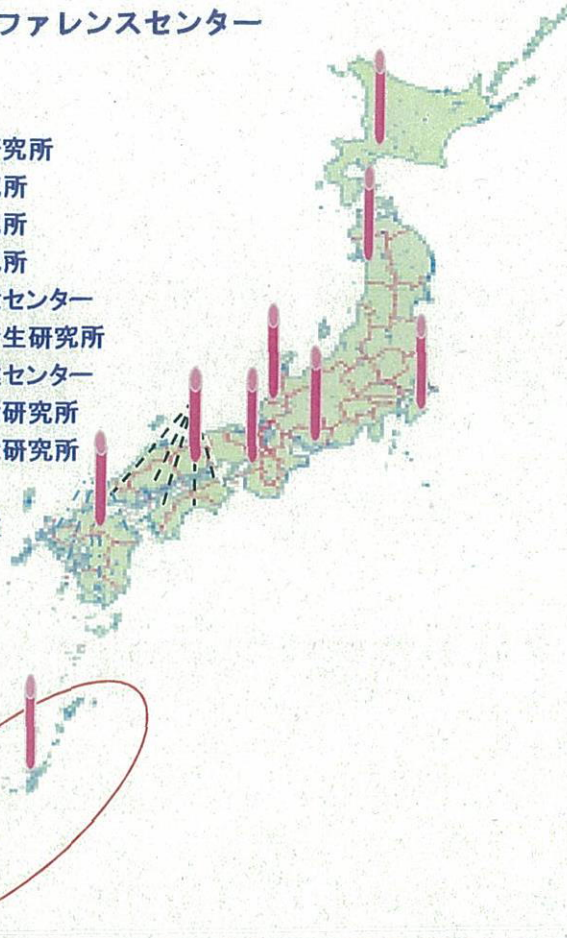
● 2010年～

問題点の発掘・改良しつつ継続的な実践あるのみ

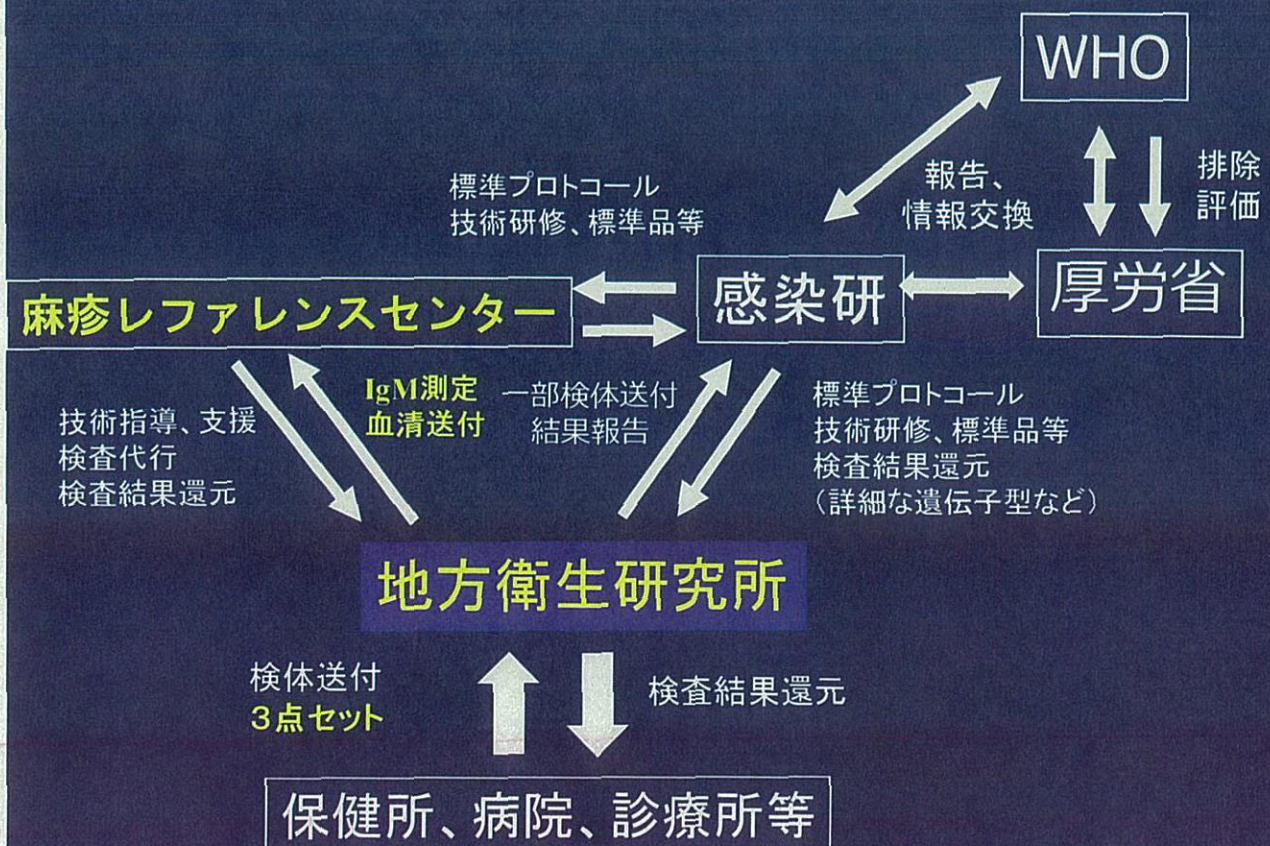


## 研究班レファレンスセンター

北海道立衛生研究所  
山形県衛生研究所  
千葉県衛生研究所  
愛知県衛生研究所  
石川県保健環境センター  
大阪府立公衆衛生研究所  
岡山県環境保健センター  
福岡県保健環境研究所  
沖縄県衛生環境研究所  
  
堺市衛生研究所



## 麻疹排除実験室内診断ネットワーク





## 麻しん診断分類

|        | PCR | 抗体検査 | ウイルス分離 | 臨床診断のみ |
|--------|-----|------|--------|--------|
| RT-PCR | 46  | 3    | 11     |        |
|        |     | 1    |        |        |
| 抗体検査   |     | 26   |        |        |
| ウイルス分離 |     |      | 1      |        |
| 臨床診断のみ |     |      |        | 28     |

( 堺市 平成19 年)

- 28例 (24.1%)からは臨床検体が提出されていない

|   |       |       |      |        |    |
|---|-------|-------|------|--------|----|
| ● | 平成20年 | 全数届け出 | 41 例 | 臨床検体提出 | 17 |
| ● | 平成21年 | 全数届け出 | 8 例  | 臨床検体提出 | 0  |

## ま と め

- 地方衛生研究所は麻しん排除に向けて、麻しん実験室内診断体制は構築されている。
- レファレンスセンターを中心に技術研修、情報交換を行っている。
- 確定診断に必要な臨床検体の採取・搬入が全ての患者に遂行されているわけではない。
- 全数届出基準を単なる患者の届出ではなく、確定検査のための臨床検体の提出の義務も併記すべきと考える。
- 保健所は麻しん排除対策現場での統括部門であり、検査部門の地方衛生研究所と密な連携・協力を計ることが重要と考える。